

自然のすがた



座光寺遠望

段丘崖下にある赤い屋根が如来寺（元善光寺）、左側手前の山が座光寺富士、右手奥の高い山が摺古木山

私たちの生活は自然にさまざまな影響^{えいきょう}をうけます。とりわけ文明の発達^{はったつ}していなかった時代は強く影響をうけました。

縄文時代^{じょうもんじだい}から弥生時代^{やよい}の人々の生活は自然と共にありました。野や山の恵^{めぐ}みに頼^{たよ}って生活をしていたのです。当時の人たちがこの地に生活の場を求めたのも、自然環境に恵まれていたからと思われます。食べ物が手に入り、飲料水^{こうずい}があり、洪水^{こうずい}や嵐^{あらし}から安全で、北風^{きたかぜ}を防げ、陽光^{ようこう}の降り注ぐ地であったからに違いありません。

奈良時代にこの地^{くんが}に郡衙^{ぐんが}がつくられたことも、座光寺の位置や自然条件が伊那谷の中で最も恵まれていたことが背景^{はいけい}にあったからと思われます。

近年になってから、人々の生活が自然に影響^{あつ}を与えるようになりました。豊かに見えた座光寺の自然にも変化がみられます。この地に住み、未来に向かっていくとき、私たちは地域の自然とどのように関わ^{かか}っていくべきか問われています。

このようなことを踏^ふまえて、地域の自然の姿^{すがた}を探^{さぐ}ってみましょう。